

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 16 日現在

機関番号：13201

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2014～2015

課題番号：26884022

研究課題名(和文) 文化的多様性のなかのグローバル倫理 - 難民・強制移動とジェンダー暴力を例とする研究

研究課題名(英文) Global Ethics in Cultural Diversity: Theoretical Inquiries and Case Studies

研究代表者

池田 丈佑 (Ikeda, Josuke)

富山大学・人間発達科学部・准教授

研究者番号：50516771

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：この研究では、理論考察とインドでの現地調査を組み合わせた2年間の活動を行った。その結果(ア)これまで主流であったグローバル倫理には西洋中心性のバイアスがあること、(イ)それを乗り越える枠組みとして、文化・価値が異なる複数の担い手による「正義のバランス」が有効であることが解明された。研究の成果は2014年から16年度にかけて著書(共著)2点、論文(単著)1点、同(共著)1点で公表されており、この報告執筆の時点で、さらに著書(共著)2点が公表の予定である。なお、これら全部のうち5点は英語による。

研究成果の概要(英文)：The project was conducted in two-year activities of (a) theoretical investigation and (b) field research in India, with 4 book chapters (2 in English; 2 forthcoming), one single-authored article (English) and another as second author (English). Thus far the research reached the conclusion that (i) contemporary Global Ethics has been culturally biased and therefore globalized ethics; and (b) the conception of 'Balance of Justice' may be a useful supplement for advancing global justice in Post-Western direction.

研究分野：倫理学 国際関係論

キーワード：グローバル倫理 国際関係倫理 国際関係論 難民 強制移動 ジェンダー暴力

1. 研究開始当初の背景

この研究が始まった当初から現在(報告書提出時)に至るまで一貫して存在していた背景は、(ア)グローバル倫理学の盛り上がりと(イ)その文化的限界、という2点であった。

倫理学、政治学、国際関係学、法学、経済学などを横断するかたちで、戦争と平和、貧困、ジェンダー、環境といった世界的問題群に「規範」という点から指針を示してきたグローバル倫理(global ethics)は、その出自と世界的拡大の双方について、非西洋地域から厳しい批判を受けてきた。批判の多くはポスト植民地主義に基づくものであり、その意味でいうなら、グローバル倫理にも他分野と同じく、「ポスト西洋的」な内容を考えることが求められるはじめた、ということができる。

一方、そのポスト植民地主義を中心とした批判的視点は、グローバル倫理の多文化的/建設的再構成までをねらったものが少なく、あくまで既存研究の批判にとどまってきた。加えて、批判を行いつつもグローバル倫理それ自身を直ちに斥けるといったところまで、現状がまだ至らないため、批判ののち、グローバル倫理をどのように発展させたいのかについても、これまでの研究では明確な姿勢が示されないままであった。

国境を越える問題群には、国家主権の是非や世界的価値の如何、倫理的価値を実現する上での制度的制約など、独特な難問がいくつか含まれている。このこともあって、グローバル倫理の研究は、既にかかなりの勢いをもって成果を積み上げてきた一方で、当の倫理が掲げる内容をめぐり意見がわかれることが多い。文化的多様性に基づくグローバル倫理批判はその先端に位置している。だが、その限界に着目し批判的視点から検討する作業は、今日端緒についたばかりである。研究代表者は過去にも、グローバル倫理の可能性と、それが内在する問題につき、先行する科研費助成や民間助成を得てある程度の成果をまとめている。

以上を要するに、研究を開始した時点で、グローバル倫理を批判的かつ建設的に考えてゆく必要があり、一方、研究代表者の側ではそれに向けたある程度の準備が整っていたということになる。

2. 研究の目的

いまのべた背景のもと、この研究では、ポスト西洋時代におけるグローバル倫理を明らかにし、その批判的再構成を行うことを目的とした。具体的には、(ア)「文明横断型倫理」としてグローバル倫理を鍛え直すこと、(イ)それを理論考察と実証研究を通して進め、知見を提出すること、という2点を、作業上で達成したい課題として設定した。研究全体を通して追求する問いは「グローバル倫

理は本当にグローバルか」というものであり、これに対して否定的回答を用意しつつも、グローバル倫理の否定にとどめないこと、この否定を乗り越える枠組みとして「文明横断型倫理」を提起することを、研究の基本的方向性として定めた。加えて、これを起点としつつ、「グローバル倫理が文化的多様性と衝突した場合どうなるか」という発展的問いを設け、難民・強制移動とジェンダー暴力という2つの例を用いて検討することで、研究の更なる展開を図った。

3. 研究の方法

この研究では、(i)グローバル倫理批判、(ii)文明横断型倫理の提起、そして(iii)文化的多様性におけるそれぞれの有り様という3つを、理論考察とインドにおける現地調査を踏まえた事例研究との重ね合わせから解明してゆく、という方法を採用した。

そのうち理論考察に関しては、まず、これまで主流とされてきたグローバル倫理が持つ西洋中心性を「グローバル倫理の失敗(Failure of Global Ethics)」として析出し、続いてグローバル倫理の失敗を克服できうる新たな思考枠組み(文明横断型倫理)を提起する、という二段階の作業を展開した。

一方、これに並行するかたちで、事例研究については、インド北部(ハリヤーナ州、一部カシミール州)をフィールドに、現地で起きている人道問題とジェンダー暴力問題に焦点を絞った聞き取り調査を実施した。実施にあたっては、ハリヤーナ州ソーニーパット市にあるO.P.ジンドル・グローバル大学を現地での活動拠点とし、2年の期間中、同大学スタッフ(5名)、現地医療NGO(Doctors For You)代表ならびにスタッフ(3名)、現地弁護士(1名)から聞き取り調査を行った。調査に関しては事前に承諾をとり、内容や氏名の公表如何について相手の意向を汲んだ上で進められている。

4. 研究成果

この報告書を提出する時点(2016年6月)で公表された業績は、日本語著書(共著)1冊、英語著書(共著)1冊、英語論文(単著)1本、英語論文(共著)1本である。このほか、学会報告2(日本ならびに米国)、国際ワークショップ2(インド並びに台湾)がある。日本語著書を除き、成果はすべて英語である。

これまでに公表した業績では、主に理論考察の結果がまとめられてきた。具体的に挙げると、(1)グローバル倫理には、その出自と展開において西洋中心的な偏り(「グローバル倫理の失敗」と呼ぶ)があること、(2)それは、論理的破綻(「内的(endogenous)失敗」と呼ぶ)と、特定の価値観が支配権を握る状況(「外的(exogenous)失敗」と呼ぶ)という2つの側面から成り立つこと、(3)

その上でとくに外的失敗に対して、新たに提示される「正義のバランス」という考えを用いればある程度是正が可能であること、という3点が、段階的に示されてきた。とりわけ、研究計画当初十分に明確化されていなかった枠組みが「正義のバランス」概念として形をえたことは、期間中得られたもっとも大きな理論的成果であったと考えられる。

なお、本研究で得られた知見は、この報告書を提出して以降も引き続きいくつか(国際学会報告1, 英語著書〔共著〕1)公表される。今後は、現地調査の内容を踏まえた、学会報告や論文の執筆を予定している。当初計画より、この研究では、英語による研究発信を主として活動しており、今後もこの方針に沿って成果の公表を行う。また、上記「予定」の成果以外のもので、グローバル倫理が「失敗」する場合に関する類型をまとめる作業を進める。

最後に、上記諸成果については、英語による研究発信を優先してきた。この姿勢は今後も変えることなく、英語圏(欧米、南アジアともに)のジャーナル、書籍(複数著者による論文集)を念頭に置いた成果の積み上げを続けたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

- Chih-Yu Shih and Josuke Ikeda (2016), 'International Relations of Post-Hybridity: Globalizations', 13(4), pp. 454-468. DOI: 10.1080/14747731.2016.1143729. (査読あり)
- Josuke Ikeda (2014), 'The Idea of the "Road" in International Relations Theory', *Perceptions: Journal of International Affairs*, 19(1), pp.153-165. (DOSなし) (査読なし)

〔学会発表〕(計2件)

- Josuke Ikeda (2015), 'The World Metamorphosed', presented at International Studies Association Annual Convention, 21st Feb 2015, Hilton New Orleans Riverside. (査読あり)
- Josuke Ikeda (2014), 'From Territory to Travel: A Worldist Case for Post-Western IR', 日本国際政治学会 2014 年度大会、2014 年 11 月 16 日、福岡国際会議場。

〔国際ワークショップ等発表〕(計1件)

- Josuke Ikeda (2015), 'Beyond Global Ethics: A Cross-Civilizational Eye' presented at Jindal-Toyama workshop on Global Humanitarianism 'Humanity Beyond Civilizations?', Nov 23, 2015, O.P. Jindal Global University, India.

〔図書〕(計2件)

- Josuke Ikeda (2016), '(Re) Creating China', in Prapin Manomaivibool and Chih-Yu Shih (eds.), *Understanding 21st Century China in Buddhist Asia* (Bangkok: Chulalongkorn University Asia Research Centre), pp. 3-20.
- 池田文佑 (2015), 「難民と国内避難民」佐島・佐藤・岩崎・村田(編)『国際学入門』法律文化社、23章所収、184-191頁。

〔今後刊行が決定している成果〕(計1点)

- Josuke Ikeda (2016, forthcoming), 'From Territory to Travel: Metabolism, Metamorphosis, and Mutation in IR,' in Piner Bilgin and L.H.M. Ling (eds.), *Decolonizing Asia? Unlearning Colonial/Imperial Power Relations* (New York: Routledge), chapter 12. (図書〔共著〕)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕(計1件)

富山大学 PR 番組 Tom's TV 出演(番組中で研究内容についての言及があった)

https://www.youtube.com/watch?v=c16K6s_U6RA

6. 研究組織

(1)研究代表者

池田文佑 (IKEDA, Josuke)

富山大学・人間発達科学部・准教授

研究者番号: 50516771

(2)研究分担者

()

研究者番号:

(3)連携研究者 ()

研究者番号：